

# おお大勝利

平成 24 年度山東サッカー部報第 6 号 (5 月 29 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 県総体初戦 劇的な逆転勝ち！

5月26日(土)、27日(日)と県総体が酒田市で開催されました。山東は8つのシード校のうちの一つなので、27日から登場。26日の酒田光陵 山本学園の試合の勝者と対戦となり、ホームの利を活かし逆転勝ちにて山本を破った酒田光陵と27日対戦することになりました。酒田光陵は、今年度合併により誕生した学校ですが、サッカー部の主力はほとんど酒田工業出身。酒田工業と言えば、昨年の県新人にてY1在籍の山東がY3の酒工に1-3で敗れるという「大失態」を演じたことが思い出される。もちろん、あの試合を「大失態」と呼ぶのはカテゴリーの違いを踏まえただけで、酒工の個々の選手のレベル、特に攻撃陣のレベルには目を見張るものがあり、対して山形東の攻守にわたる稚拙さ・淡白さも際立ち、試合内容を踏まえれば波乱と呼ぶことはできない試合でした。あの悔しい思いがあったため、今回抽選の際に、山東の山に飽海・置賜・最北の地区大会1位のチームのうちどこかが来ると知ったとき、心の中で「光陵来い」と思ったものでした。果せるかな、抽選の結果、酒田光陵が山東の山を引き当て、対戦の可能性が出て、「よし、あの雪辱を果たす機会はここだ」と否が応にも気合が高まりました。光陵 山本戦は、光陵が苦しんだものの、最終的には実力通りの結果となり、「やはり来たな」とニヤリ。あの敗戦から立ち上がって力をつけ、まぐれ当たりでもありましたが地区優勝した現在の山東の力を見せつけ、古傷を癒すチャンスが到来したのです。その到来を前向きに捉えず「また負けるかもしれない」と恐れるのは、勝負の世界に生きる者のメンタリティとは呼べないでしょう。良い意味の執念深さは負けん気の裏返しでもあります。

さて、酒田光陵 G にて 13:00 試合開始。会場には元サッカー部顧問でもある大沼教頭をはじめ、山科先生率いる大応援団も応援に駆け付けて下さる。保護者の方の数もとても多い(ホームの光陵より間違いなく保護者数が多かったです)。もちろん、清野 OB 会会長はベンチ入りし、報道局長とともに遠路はるばるいらっしゃって下さる。また、今年から酒田市役所に就職した山東 58 回卒の OB ケイや、今年から酒田に勤務されているシンペー父<sup>1</sup>も応援に駆け付けて下さる。あとは選手が応援

<sup>1</sup> シンペーはケイの一つ下の後輩で、山形 FC 山形東 筑波大学と、これまで歩んできた道程も一緒。シンペーは今大学四年で、今年 6 月から山形東に体育の教育実習生として来る予定です(ちなみ

を力に換えるだけ。前半、不正確なロングフィードによりボールを相手に与え続け、また、クリアの不正確さから深い位置でスローインやCKを与えリズムが崩れていく、いつものパターンにより、最悪の「入り」を迎える。警戒していた力強い光陵右MFに冷や汗物のシュートを打たれるなど、完全にペースを握られる。ロングボールが悪いわけではありませんが、ただ焦ってFWの走り込むコースや走り込むタイミングを無視したボールを蹴り続けるのは、稚拙の一言。DFがフリーの場面（相手のプレッシャーを受けていない場面）ならしっかりとトラップからパスをしてほしいのに、DFは浮き球だと決まってアバウトなクリアをし続ける、焦りが伝わるプレーの連続。MFも収められず、FWは孤立する、という悪い流れに、ベンチのバックアップメンバーから「去年の県新人みたいな展開だ」という感想が漏れる。「こんな成長が見られない試合をしたかったんじゃない」と心から叫びたいが、うまくはいかない。クリアミスから与えたCKをヘディングで決められ、悪い流れをしっかりと突かれてしまう。0 - 1のビハインド。流れの良さをしっかりと得点に結びつけるのは決して簡単なことではないのですが、これまた警戒していた光陵FWに仕事をさせてしまう。やはり光陵、力がある！ ビハインドになると、突然丁寧なボール回しが登場し、山東が押し込む時間が増えるが、押し込んでも人数が揃っているところにセンターリングを上げるだけで工夫がなく、しっかりと跳ね返されてしまう。前半0 - 1のまま。

後半は山東の攻撃が活性化し、右からも左からもシュートまで行くシーンが増える。ただ、守備陣の不安定さは目を覆うばかりで、攻めていても逆襲が怖く、気がでない。攻撃では最高のことを思い浮かべ仲間を信じて走りだし、守備では最悪のことを想定しながら危険に備えておくということはサッカーの初歩の初歩にもかかわらず、攻守にわたってそれができていない<sup>2</sup>。良く言えば厚く、悪く言えばガラガラと攻める山東に対して、鋭く速いカウンターの光陵といった後半。シュートの本数は増えるものの、なかなかネットを揺らすことができず、時間に追われ始める山東。徐々にベンチも焦ってまいりました。いよいよ30分を過ぎパワープレーを考え、CDFをFWにコンバートしようとメンバーチェンジを申請している最中に、事件が起きました！ センターリングの処理を誤り、光陵サイドバックが痛恨のオウンゴール。もちろん山東が圧力をかけ続けたから起こった事件といえますが、光陵にとってアンラッキー、山東にとってはラッキーな同点劇となる。何と後半32分の同点劇。よし、流れは山東にあり、延長でケリをつける！ と意気込み、延長の時間内の交代策について考えていると、どんな展開でそうだったかは分かりませんが、

---

に同じ学年のタイラも何と物理！の実習生として来る予定です）。そのシンペーのお父様すなわち保護者OBが応援に駆け付けて下さりました。

<sup>2</sup> 守備においてカバリングの選手がもっと深い位置取り（もっと下がった位置取り）を瞬時にとれば何の問題もなく前進してクリアできるボールも、予め下がっていないものだから下がりながらの不十分な体勢でのクリアになってしまい、連続攻撃を浴びておりました。また攻撃においても、FWが味方の「跳ね返し＝相手のGKなどのロングフィードをヘディング等で跳ね返して相手ディフェンスライン裏にボールが落ちること」を信じて予め走っていればチャンスになったシーンも、FWが緩慢で、チャンスをふいにするシーンもありました。

相手 CB を山東の選手二人が挟み込み、ゴールの目の前でボールを奪い、GK をかわしてそのままフィニッシュ。何と何と、後半 34 分の逆転弾!!! 35 分ハーフの大会ですから、出来過ぎてます。長めのアディショナル・タイムも乗り切り、劇的過ぎる 2 - 1 の逆転勝ちとなる。

いや~、もっと落ちついて勝ちたいのですがね~。S 村顧問曰く「腹が痛くなる試合」。S 村先生の胃は腹全体に広がっているのかよくわかりませんでした。それはともかく、運を味方につけたような勝利。それはそれで第一ラウンドで負ける最悪の結果を避けることができ良かったのですが、選手の成長をどこに見いだしたらよいのか……。まあ、県新人の時と異なり、後半などはゴール前で個々のアイデアを活かしたフィニッシュ(惜しいシュート)を何本か見ることができました。その落ちついたボール回しと攻めが運を引き寄せたと考えれば、気持ちは軽いのですが……。そう考えることにします。山東の伝統の粘り強さも、発揮されましたね。

光陵の選手は泣き崩れていました。この、勝ちを手元まで手繰り寄せておいての負けは、痛い。悔しいでしょうね。次の羽黒戦は、挨拶後握手した際に「羽黒を倒して下さい」と言葉をかけてくれた光陵主将の爽やかな態度に応える戦いをぜひしたいと思います。何度となく山東の前に立ちふさがってきた羽黒高校、県総体での対戦は 3 年連続となります。県総体直前の Y リーグにて 0 - 7 で敗れている相手、厳しい試合は必至となりますが、そろそろ一発入れたいところ。高校生の一発勝負の試合、何が起こるか分からないですからね。

今回の劇的逆転勝利は、本当に皆様の応援が選手の力となり、もたらされたものと感じました。ありがとうございました。次戦、6 月 1 日(金)県総体準々決勝羽黒戦(@酒田市飯森山グラウンド 13:00 キックオフ)もよろしくお祈いします。飯森山グラウンドは、4 年前にカオルの代が県総体に臨み、準決勝で敗れるものの 3 位となり東北選手権への出場権を得た「思い出の地」。験が良いと信じて次戦います。もし 1 日に勝てば、2 日準決勝は山形中央と山形商業の勝者との対戦(@酒田市飯森山グラウンド 11:00 キックオフ)。3 日決勝/3 位決定戦は同じく 11:00 キックオフで決勝が飯森山、3 決がその隣の公益文科大 G となります。よろしくお祈いします。